

2011年度 第1回定例観察会報告（5班）

1. コース： 六甲全縦第1回塩屋～旗振り山～高倉台
2. 実施日： 2011年4月9日（土）
3. 天 候： 曇
4. 参加者： ビジター16名 会員22名 計38名
5. 観察記録

9：00 JR塩屋駅集合

塩屋は東大寺荘園であり、生産した塩を寺に送っていた。背後の山は「塩山」で藻塩を焼く薪の産地でもあった。

9：15 出発 旧全縦路をたどる。

アラカシ 年に一度春に一斉開葉する。

9：30 山王神社付近

ヤマモモ 雌雄異株 関東地方南部以西の木で白川村のヤマモモは朝廷への献上木であった。

ウバメガシ 海岸性。須磨沿岸の山々の中心をなす樹木のひとつ。薪炭材料として重要。備長炭の材料である。

ヤブツバキ 万葉にも詠まれる古くから親しまれている木で艶葉木または厚葉木が命名の由来ともいわれる。送粉者は昆虫ではなくヒヨドリ、メジロなどの鳥類。蜜も多く鳥類に識別しやすい赤色の花卉である。

ナズナ オランダミミナグサの観察。ルーペの使用。手触り、葉の表裏観察など。

イタビカズラ 葉の表裏、手触り、葉脈など観察する。

ヒメウズ トリカブトと同じ仲間でキンポウゲ科。ウズは鳥頭でトリカブトの根を干した形からの命名。毒草である。

カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサの比較観察。

ヤエムグラ 対生 他は托葉の変化したもの。古来より歌に多く詠まれ荒れ果てた家や庭の表現に用いられる。葉軸、毛などをルーペで観察する。

シロダモ、ヤブニッケイ、クスノキの葉の表裏、葉脈、色などの比較。対生、互生、コクサギ型など葉の付き方や枝の張り方、生育している場所など時間をかけて観察する。

カナメモチの葉の色、艶、硬さ、鋸歯の特徴を観察する。ネズミモチ、トウネズミモチと比較してそれぞれの特性を確かめる。

タケ、ササの比較、それぞれの特徴の観察。鞘の有無を観察。

マダケ、ハチク、モウソウチクの節を見比べて違いを知る。

タンキリマメとトキリマメの違いを説明。

10：00 眺海墓苑～

ヒサカキ 春山に満ちる香の中心をなす木である。ルーペで雄、雌の花を見分ける。命名は姫榊とも非榊とも。

クヌギ、コナラ、アベマキ

樹皮、葉の形状、鋸歯、毛の有無などを比較検討する。落葉のしくみについて説明。「離層」説明。

カクレミノの葉の観察

リョウブ 葉の付き方、樹皮の観察。樹皮のはがれ方をネジキ、アセビと比較。漢字で「令法」。平安初期～中期貯蔵するよう官令(令法)が発せられてそれがそのまま名前になったという。若葉は重要な救荒食であった。

山里や旅にしあれば令法飯(百井塘雨 江戸後期)

ムベ 常緑であり、小葉が5～7枚生じるので古来より縁起がよいとされる。朝廷へ献上した大贄が語源といわれる。熟してもアケビのように実が割れないので武家が切腹しない(腹が割れない)まじないに垣根に植えたという。

コバノミツバツツジとモチツツジの葉や花の比較。落葉と半落葉 花元の粘りなどを確かめる。

ウバメガシの純林

空を仰いで木々の枝の張りだし方を観察し、その理由を考える。樹木が互いに牽制し合って枝を重ならせない状況を観察する。アレロパシーケミカルの説明をする。ウバメガシ林の下部はほとんど陽が差さず植生は極端に乏しい。ギャップなどのチャンスを気長に待つシードバンクについて説明する。

シャシャンボとウバメガシの比較と観察

幹の違い 葉の形状の違いなど。

サクラ(ヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノ)

サクラの歌は万葉集には多くない。奈良時代花の代表はウメ。平安時代以降「ハナ」といえばサクラを指すようになり、盛んに桜狩りが催される。古今、新古今を通じて短歌にも多く詠まれている。江戸期には庶民の間にも花見が広まる。

醍醐の花見・・・豊臣秀吉

ありたきもの・・・「花は桜木人は武士」(歌舞伎)

敷島の大和心を人間はば朝日に匂う山桜花(本居宣長)

「長屋の花見」(落語)

咲いた花なら・・・見事散りましょ国のため(軍歌)

サクラの種類比較

・ソメイヨシノ・・・エドヒガンとオオシマの自然交配雑種。江戸末期駒込染井の植木職人たちによって広められた。実生が期待できず挿し木で増やす。花が大きく成長が早いオオシマザクラ、花が先に開くエドヒガン、それぞれの性質を受け継いでいる。寿命は短い(80年程度)。江戸末期以降から鑑賞されたサクラである。

・オオシマザクラ・・・純白の花を葉の展開と同時に咲かせる。伊豆大島に自生。薪桜とも。(薪材として重宝した)塩漬けにして桜餅に使用。

・エドヒガン・・・花が小さく長寿 国指定天然記念物のほとんどはエドヒガンである。

・ヤマザクラ・・・黄芽、赤芽、青芽と花だけでなく若芽の色合いも美しい。

「これはこれとはばかり花の芳野山」(江戸期 安原貞室)

和歌にも最も多く詠まれた桜である。

宿りして春の山辺に寝たる夜は夢のうちにも花ぞちりける(古今集 紀貫之)

春風の花を散らすと見る夢はさめても胸の騒ぐなりけり(新古今集 西行)

風通ふ寝覚めの袖の花の香にかをるまくらの春の夜の夢（新古今集 俊成女）

12：00 須磨浦山上遊園地着 昼食

12：30 出発 この地で源平合戦が戦われたので歴史や伝承について説明する。熊谷次郎直実と平敦盛の戦い、青葉の笛の由来、敦盛の首塚など。

平忠度の最後 残された歌。その背景など（平家物語の内容に沿って説明）

行き暮れて木の下かげを宿とせば花やこよひのあるじならまし（忠度）

さざ浪や滋賀のみやこは荒れにしを昔ながらの山桜かな（忠度）

源義経「一ノ谷の逆落とし」など。

オオイヌノフグリ コハコベの観察。

12：50 旗振山 国境（くにぎかい）

旗を振って米相場を伝えた場所である。中継点を確認していく。

国境 「かたつぶり角振り分けよ須磨明石」「笈の小文」所収松尾芭蕉の句がある。

眼下を境川が流れここで機内と分かれる。地形を観察する。

「春の海ひねもすのたりのたりかな」（与謝蕪村）の句の説明とともに瀬戸

内海の穏やかな海を鑑賞する。

トベラ、シャリンバイの樹形、葉柄、葉の形、鋸歯 色、葉裏、葉脈などを比べ合わせる。

カゴノキ シラカシ、ヒメユズリハなど常緑樹を比較観察する。

オオバヤシャブシの葉、雌花 雄花を観察する。

14：30 高倉台着 解散

2011.4.17